

クビアカツヤカミキリの被害から 樹木を守る防除方法例

最近、お庭に植えてあるサクラ、ウメ、モモなどのバラ科の樹木の根元付近に、たくさんの木くず(フラス)が出ていたりしていませんか？



木くず(フラス)が出ている場合、特定外来生物クビアカツヤカミキリによる被害をうけていると思われます。

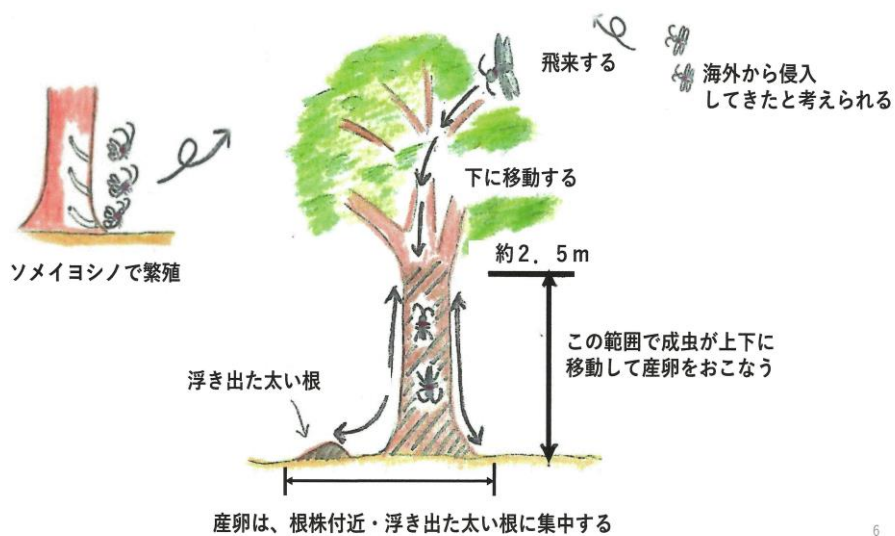


成虫の行動パターン

クビアカツヤカミキリの成虫は、6～8月の間、飛び回って、サクラ、ウメ、モモなどのバラ科の樹木に産卵しに来ます。

成虫は、樹木を加害することはありませんが、産卵された卵からふ化した幼虫は、樹木の幹や太い枝から幹の中にせん孔し、生きた樹木内の組織を食害し、木くず(フラス)を外に出します。

幼虫による食害が、ひどくなると樹木は衰弱し、枯れてしまいます。



クビアカツヤカミキリの幼虫が、幹や太い枝の中にせん孔(せんこう※)して食害している場合の幼虫を駆除する方法

※せん孔…穴をあけること

サクラの樹木から、木くず(フラス)が出ているのを発見した場合は、せん孔性害虫(クビアカツヤカミキリの幼虫)が樹木に侵入し、加害していると思われますので、次の方法で駆除しましょう。

ノズル式のスプレー缶を使って、木くずやフラスの出ている穴の中に、ノズルの先を挿入して、3～5秒間スプレーします。



キンチョールEによる駆除例



2～3日おきに状態を確認し、更に新しい木くず(フラス)が出ている場合は、繰り返し、スプレー缶を使って駆除を何回も続けてください。

新しく木くず(フラス)が出ていないようでしたら、駆除ができています。

クビアカツヤカミキリの幼虫は、3月中旬から11月頃まで樹木の中の材質部分で食害活動をします。

再び、新しく木くず(フラス)が出ている場合がありますので、定期的の確認するようにしましょう。

成虫を発見した時の駆除の方法

樹木の枝や幹に、クビアカツヤカミキリの成虫を発見した場合は、捕まえて直ちに踏みつぶしてください。

また、ゴキブリを駆除するスプレー式の殺虫剤を、成虫に直接、噴射して駆除することも可能です。



成虫が樹木に産卵しに来ないように予防する 場合の方法と細い木くず(フラス)が出て 時の幼虫の駆除方法

成虫が飛び回る6～8月まで、毎月1回、樹木の幹や太い枝に薬剤を散布して成虫が寄り付かないように予防します。

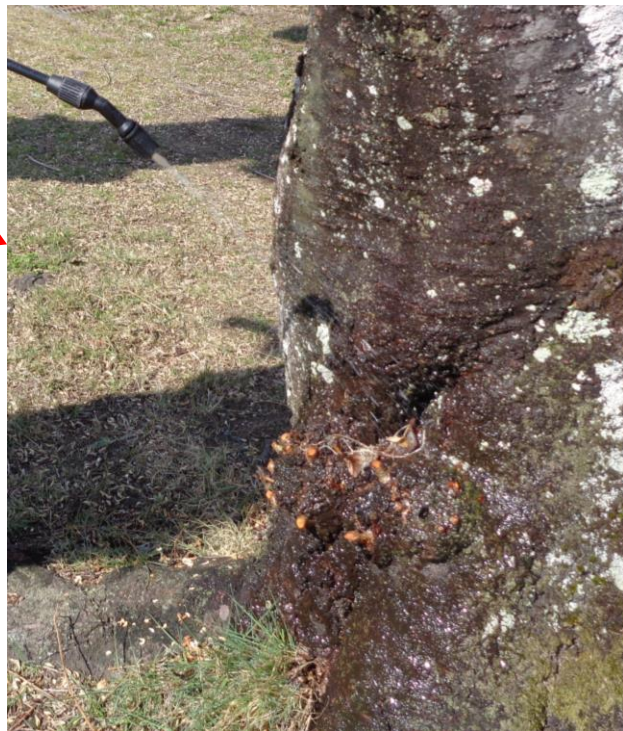
また、幼虫がせん孔したと思われる場所から出ている木くず、フラスが細かい場合は、その木くず(フラス)が出ている穴の周辺を入念に薬剤散布して駆除します。

散布は樹木の根株と幹、太い枝を中心に入念にシャワー状で散布し、葉っぱに薬剤がかからないようにしましょう。

葉に薬剤がかかると、葉が茶色くなり(薬害)葉が枯れてしまいますので、注意してください。



サクラ類の樹木は、マツグリーン液剤2(100倍希釈液)を散布



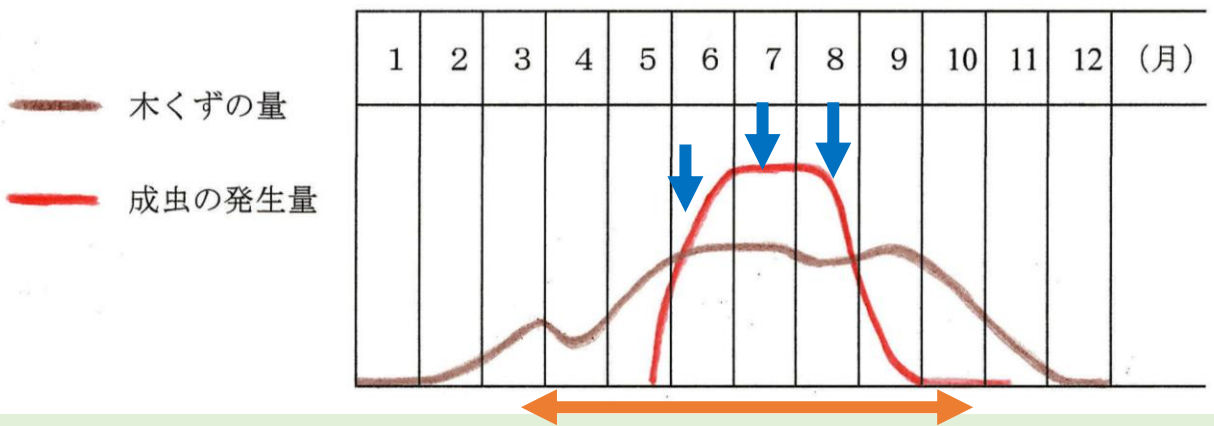
使用薬剤は、登録農薬を使いましょう。





モモ、ウメ、サクラ類の樹木は、モスピラン顆粒水溶剤(2000倍希釈液)を散布

防除年表

富田林市におけるクビアカツヤカミキリの発生期間と防除



矢印  は薬剤散布(樹幹散布)による防除
根株・幹・太い枝に入念にシャワー状で散布する

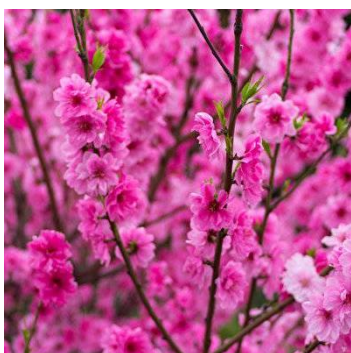
矢印期間  サクラは、ノズル式のスプレー缶を使って、新しい木くず
(フラス)が出ている穴の中に噴射する



ここで言う、「木くず」「フラス」とは、幹や太い枝の中を幼虫が食害、せん孔した時に、外に出す排出物のことを言います。

フラスの意味は、幼虫の糞と木くずが混ざった状態のものを言います。

モモ



サクラ



ウメ



お庭に、サクラなどが植栽されていたら、樹木の根元や太い枝が分かれている部分などに、木くず(フラス)が出ていないかどうか、定期的に確認するようにしましょう。